

ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査 (令和3年度～5年度)

1 調査目的

ポットで緑化木を生産する場合、ルーピング（根がポットの内面に沿って伸長し、とぐろを巻いたようになる現象）を起こすと、定植後の初期成長が抑えられ、生育不良となることがあるため、健全な生育を促進するためには、ルーピングを軽減して細根を発達させることが大切です。

そこで、根の生長に少なからず影響を及ぼすと考えられるポットの水抜き穴に着目し、水抜き穴の数量や配置、形状などが異なるポットを使用して苗木を育成し、根の生長との関連を調査します。

また、ポットの色により光の透過率が異なり、根の生長に影響を及ぼすことが考えられますので、併せて関連を調査します。

2 調査内容

(1) ポットの種類（水抜き穴の配置等）

次の4種のポット（a～d）で苗木を育成して根系の発達状況等を調べます。

① 素材：PE（ポリエチレン）、サイズ：12.0cm、色：黒及び半透明

- a 底部の中心に1穴
- b 底部の中心に1穴+角に4穴
- c 底部の中心に1穴+側面に8スリット

② 素材：PP（ポリプロピレン）、サイズ：DF4.5（約13cm）、色：黒

- d 側面に多数のスリット及び底部に多数の細かな角穴



<使用ポット>

手前（黒）・奥（半透明）ともに左から

- a（底部の中心に1穴）
 - b（底部の中心に1穴+角に4穴）
 - c（底部の中心に1穴+側面に8スリット）
- 右端
- d（側面及び底面に多数のスリット、角穴）

(2) 樹種

この地域で、ポット生産されており、ルーピングを起こしやすい下記の6樹種を対象とします（変更あり）。

サザンカ、キンメツゲ、レッドロビン、ヒメシャラ、イロハモミジ、ラカンマキ

(3) 調査内容

① 地上部の生育状況

- ・根元径、樹高を定期的に計測します。

② 根系の発達状況

- ・ルーピングの発生状況を確認します。